

学習過程における座席の問題

特別教室における能力別グループ学習と席について(Ⅱ)

鈴木 孝

1. はじめに

今回は、中学3年時において理科の学習理解力を深めさせることができる方法ではないかと、能力別グループ編成を試みその結果を報告した。すなわち、それ相応の環境を整え、与えることにより生徒の能力をある程度伸ばせること、又いろいろな方法で生徒に刺激をあたえてやるのが大切だとわかった。

今回その生徒たちが高校2年生になり、理科の教科もより高等になり、物化生地と細分化された中で、化学を学習することになった。この時期において、中学3年時でみられたようなことが考えられるか、それともある程度の能力固定化が進むかどうか、同様の方法で調べてみることにした。

2. 能力別グループ編成について

そこで本校の高校2年生(附属中学校からの生徒70名弱と外部からの応募者から200名抽選し、その中で内申、学力の総合選抜した60名余りとで合計135名が入学)3クラス中2クラスB、C(91名)を1年間化学教室で教えることになった。

1学期の中間試験までは、出席番号順に男・女2名ずつの4名のグループを作った。中間試験が終わってから、毎回の試験で下位の者から順に男・女2名ずつの4名の能力別グループを教卓から近い順に席を決めた。最後の3学期は、生徒の自由になかよしグループで席を決めさせた。3月上旬に、前回と同様なアンケートをとってみた。

アンケート

1 席について

a いままでの席のきめ方で良いと思ったものは下の中(1)~(3)のどれか。()

b 自分をもっとも学習に専念できた席のきめ方は、下の中(1)~(3)のどれか。()

- (1) 自分の好きな子と自由にすわる。
- (2) 番号順に席をきめる。
- (3) 成績順に席をきめる。

2 成績順に席をきめた時について

a 前の席にすわった人

- (1) ききやすい場所で、しっかり学習ができることがわかった。(はい、いいえ)

(2) 前にすわってはずかしかった。(はい、いいえ)

(3) 今度はしっかりがんばろうと思った。

(はい、いいえ)

(4) 理科(化学)が前よりきらいになった。

(はい、いいえ)

(5) 先生の目がゆきとどいて、授業に緊張感がでてきた。

(はい、いいえ)

b 後の席にすわった人

(1) ききにくいことや黒板がみにくく学習に身がはいらない面があった。(はい、いいえ)

(2) 後にすわって優越感を感じた。(はい、いいえ)

(3) 学習にはげみができた。(はい、いいえ)

(4) 理科が前より好きになった。(はい、いいえ)

(5) 先生の目がとどかなく、自分の好きなことが、できるようになった。(はい、いいえ)

3 次の文にあたるものに○をうちなさい。

(1) 自分なりに、いつも一生懸命がんばっている。

(2) 今度もがんばろうと思って、しっかりがんばったがあまりかわらなかった。

(3) 今度はがんばろうと思って、しっかりがんばったら自分が思っていたよりよくできた。

(4) がんばろうと思わなかった。

4 グループ全体について

(1) 同じくらいの力の生徒のグループの方がみんな話し合いがうまくいく。(はい、いいえ)

(2) よくできる人がグループの中に1人ぐらいいた方がいろいろと教えてもらえて授業にも身がはいっている。(はい、いいえ)

(3) 自由な、なかよしグループの方が学習に身がはいっている。(はい、いいえ)

5. 4の3つのグループでよいと思うのはどれか。

()

3. アンケートの結果と各グループの成績

席のきめ方で生徒自身がよいと思っている方法は、中3時にくらべて自分の好きな子と自由にすわりたい希望が増加していることがわかる。しかし、自分が最も学習に専念できた席の決め方は、中3時と大きな違いはあらわれていない。

学習過程における座席の問題

(1) アンケートの結果

高2 B 46名 高2 C 45名 合計 91名 ()内は中3時の人数 A組 40名 B組 43名

1 席について

		B組 (A組)	C組 (B組)	合計
a	(1)	35 (25)	34 (27)	69 (52)
	(2)	4 (4)	5 (7)	9 (11)
	(3)	8 (11)	3 (9)	11 (20)
b	(1)	15 (13)	14 (12)	29 (25)
	(2)	2 (6)	13 (4)	15 (10)
	(3)	28 (21)	14 (27)	42 (48)

2 成績順に席をきめた時について

a 前の席にすわった人

	B組 (A組)		C組 (B組)		合計	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
(1)	21 (15)	14 (13)	16 (22)	15 (10)	37 (37)	29 (23)
(2)	10 (10)	24 (18)	9 (12)	24 (20)	19 (22)	48 (38)
(3)	30 (23)	4 (5)	22 (31)	8 (1)	52 (54)	12 (6)
(4)	13 (9)	20 (18)	12 (12)	18 (20)	25 (21)	38 (38)
(5)	13 (13)	21 (12)	8 (25)	23 (7)	21 (40)	42 (19)

b 後の席にすわった人

	B組 (A組)		C組 (B組)		合計	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
(1)	20 (11)	11 (14)	15 (12)	13 (17)	35 (23)	24 (31)
(2)	2 (3)	28 (22)	2 (0)	25 (29)	4 (3)	53 (51)
(3)	16 (9)	15 (15)	6 (11)	20 (18)	22 (20)	35 (33)
(4)	15 (13)	15 (12)	5 (10)	21 (18)	20 (23)	36 (30)
(5)	4 (2)	26 (23)	4 (3)	25 (26)	8 (5)	51 (49)

3

	B組 (A組)	C組 (B組)	合計
(1)	17 (10)	12 (15)	29 (25)
(2)	26 (24)	22 (20)	48 (44)
(3)	7 (9)	8 (12)	15 (21)
(4)	1 (1)	7 (3)	8 (4)

4 グループ全体について

		B組 (A組)	C組 (B組)	合計
(1)	はい	21 (19)	23 (21)	44 (40)
	いいえ	24 (21)	18 (22)	42 (43)
(2)	はい	35 (27)	31 (26)	66 (53)
	いいえ	9 (13)	12 (17)	21 (30)
(3)	はい	26 (22)	26 (21)	52 (43)
	いいえ	19 (18)	19 (22)	38 (40)

5

	B組 (A組)	C組 (B組)	合計
(1)	8 (8)	8 (12)	16 (20)
(2)	22 (16)	14 (13)	36 (29)
(3)	11 (14)	19 (16)	30 (30)

のであろうか。

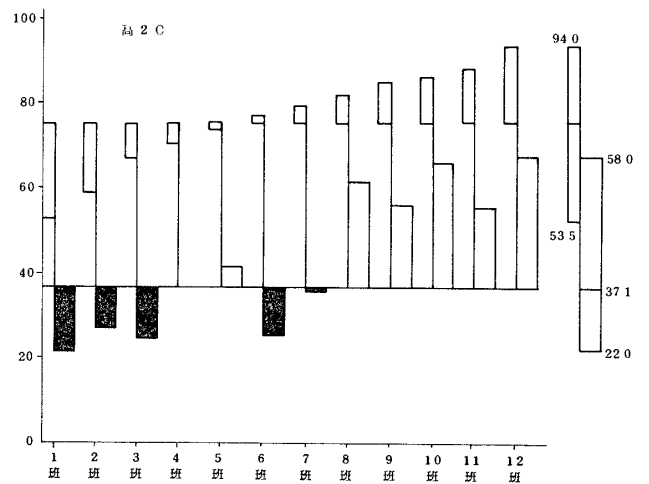
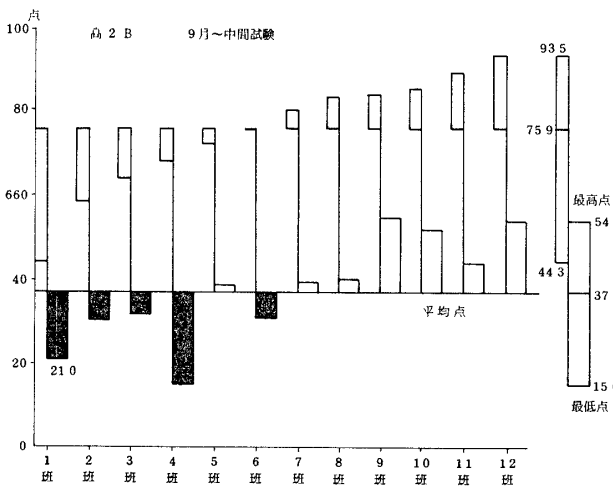
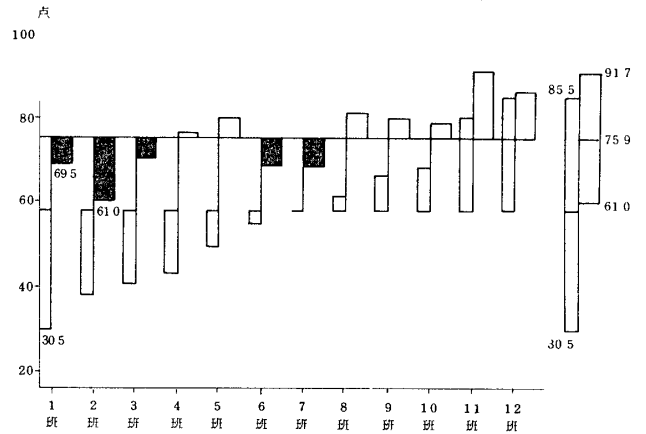
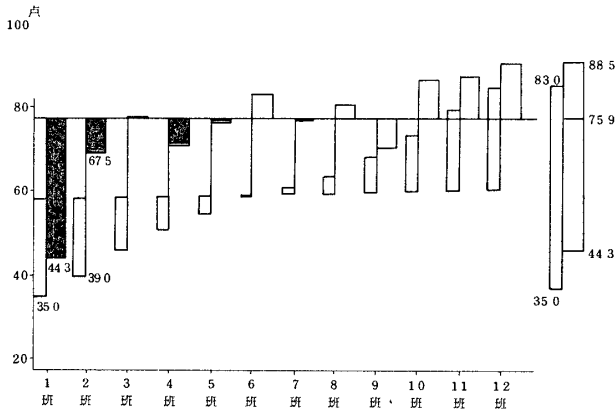
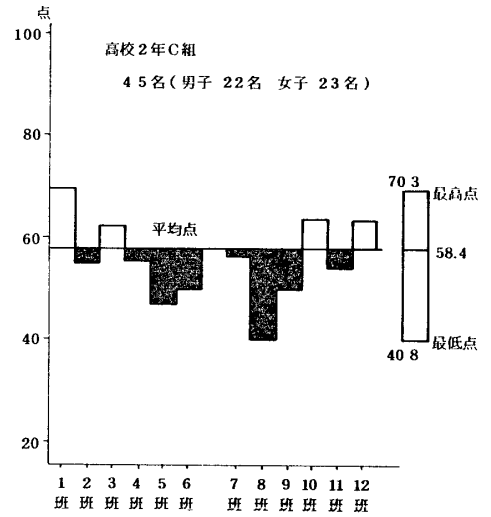
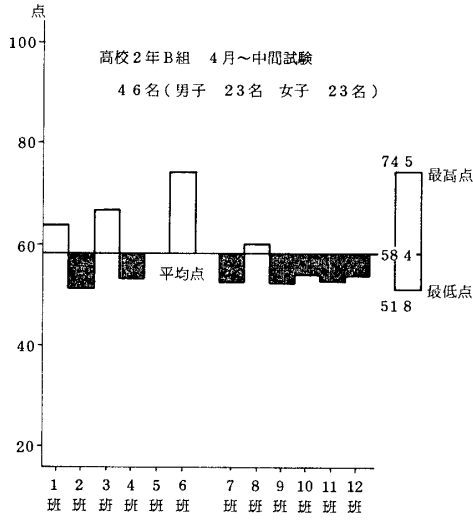
後の席にすわった生徒のアンケートでは、高等科目に興味を持って臨んでいることがうかがえる。聴き取りにくいことや、黒板が見にくく学習に身が入らないという数が増加している。生徒の本根の部分、高校生になって強くあらわれてきているのではない。

グループを作る際、生徒はいままでによく言われている(よくできる人をグループの中に1人ぐらい入れて構成する)方法が、いいと言っている数が、中3にくらべ高2は増加している。

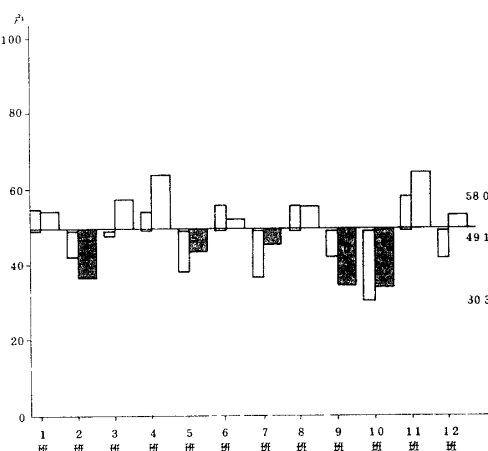
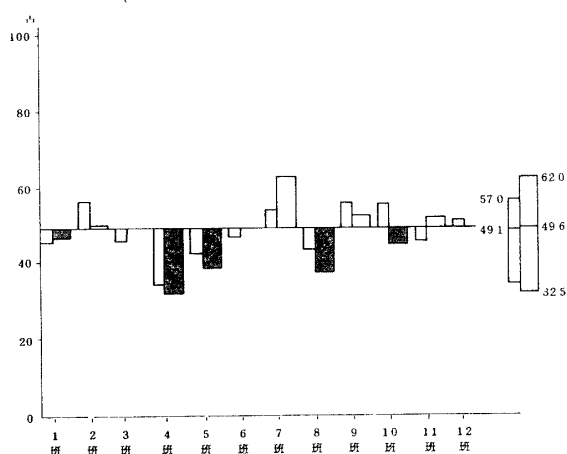
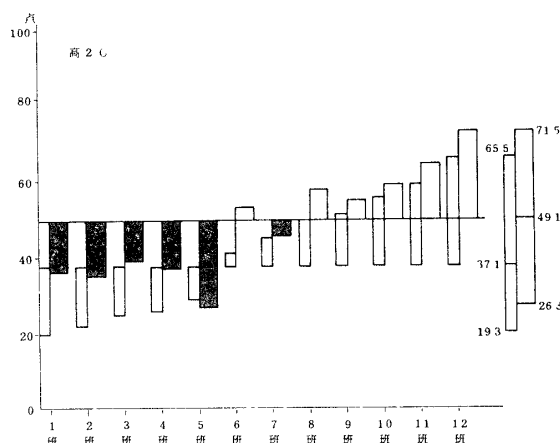
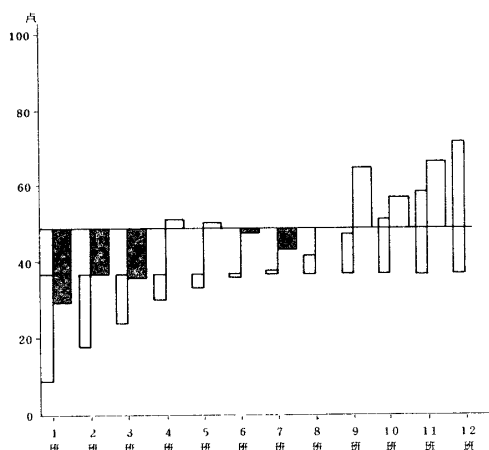
実際に成績順に席にすわった結果のアンケートを調べると、前の席にすわった人の意見は、次の点一つが異なるがあとはよく似ている。それは、中3時においては、先生の目が行き届いて授業に緊張感があったと言っている生徒数が、減少していること。高2にもなると緊張が薄れて、高等科目へのあきらめがでている

平均点一覽表

	1学期中間試験	1学期期末試験	2学期中間試験	2学期期末試験	学年末試験
全学年	58.4	75.9	37.1	49.1	49.6
高2 A	61.3	77.7	35.7	52.3	52.0
高2 B	58.1	74.2	36.9	48.5	46.9
高2 C	56.0	75.9	38.6	46.5	49.9



学習過程における座席の問題



4. おわりに

以上のことから、文章暗記型の試験に対しては、なんらかの刺激をあたえていることが考えられる。しかし計算問題では、やはり公式等の理解がうまくできなく、その応用はさらに困難になってきて、伸びがのぞめないといった感じではないか。ただ覚えていれはいいと言ったところとちがうのがあらわれている。1学期末までの努力が夏休みすぎた2学期中間試験より減退していくのが感じられる。

2学期という時期が、化学を学習していく1つの節目ではないかと考えられる。3学期になるとますますはっきりしてきている。この時期になると、大学受験の方向も決まり受験科目もそろそろ決定しだし、必要でない生徒にとっては、単位があればいいといった感じが強くなってきている。前回の成績にくらべ、できる生徒グループとできない生徒グループの差がはっきりできてきている。

中学とちがって高2の化学では、2学期頃に計算問題がはいり、このあたりが節目となって分けれていく。ある程度の刺激をあたえることも必要であるが、それですべてカバーしていくことはできない。生徒自身の素質があらわれる時期であると考えられた。

グループ別の成績結果を調べてみた。1学期中間試験（文章暗記型）結果では、A、B、Cの順の成績がでた。成績順のグループ別にならんだ1学期末試験（文章暗記型）の結果でBクラスの生徒において、最下位のグループをのぞいて、刺激となり良い結果（2班 39.0→67.5）がみられ、Cクラスの生徒でも同様な良い結果（1班 30.5→69.5）があらわれた。クラス順序の成績も変化があらわれている。（A→B→CからA→C→Bへ）

夏休みがすぎ、2学期の中間試験（計算問題中心型）では、1学期の2回にわたる試験とは内容がことなつた。クラス成績の順序にさらに変化があらわれた。（C→B→A）計算問題中心になると前回の文章暗記型の様なのではなくある程度の成績固定化し上位・下位が二分化するがあらわれてきている。2学期、期末試験（文章暗記・計算混合型）で行われた結果、クラス順位は、最初の状態にもどつた。（A→B→C）

最後の3学期、学年末試験においては、刺激の材料が少ない、自由ななかよしグループであったことがグループに大きな変化をもたらさなかつたのではないか。

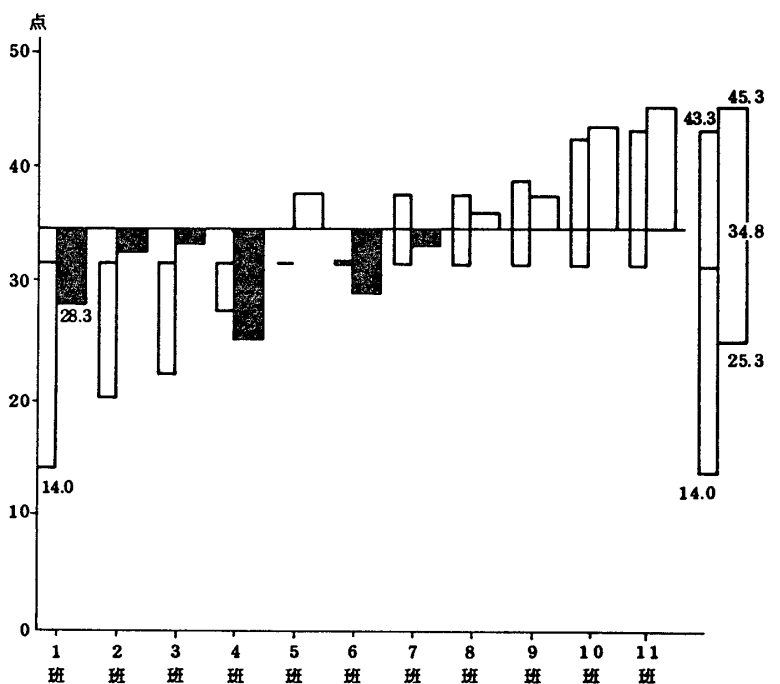
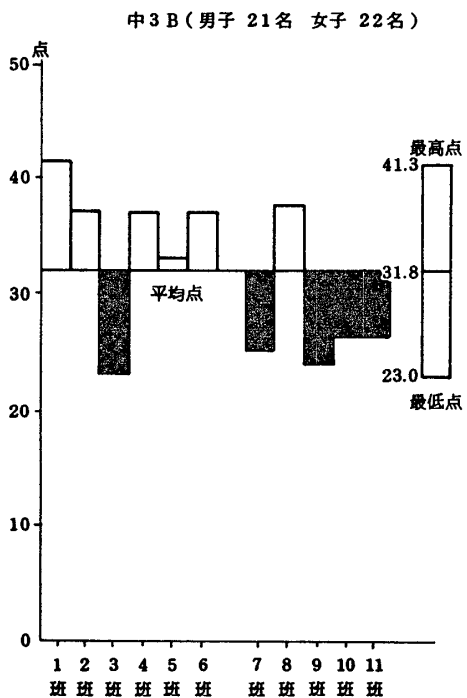
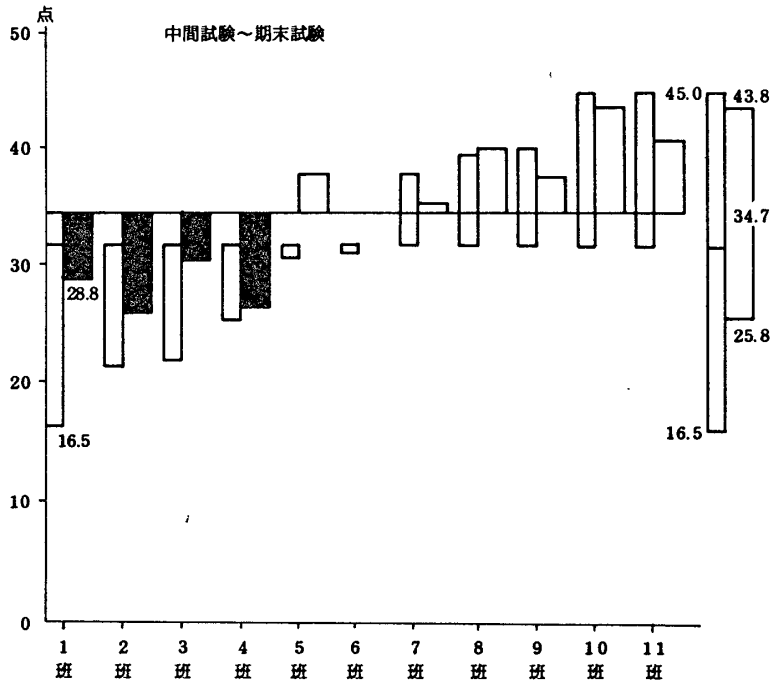
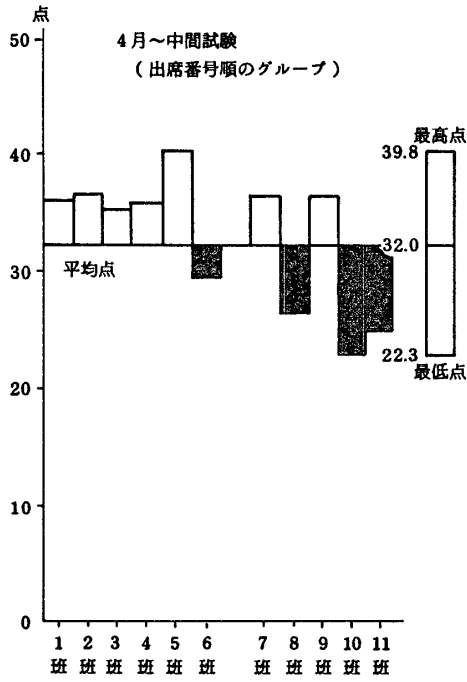
参 考 文 献

1) 鈴木 孝 ; 名古屋大学教育学部附属中高等学校紀要第 2 6 基 (1981) P 14 ~ 16

〈 参 考 〉

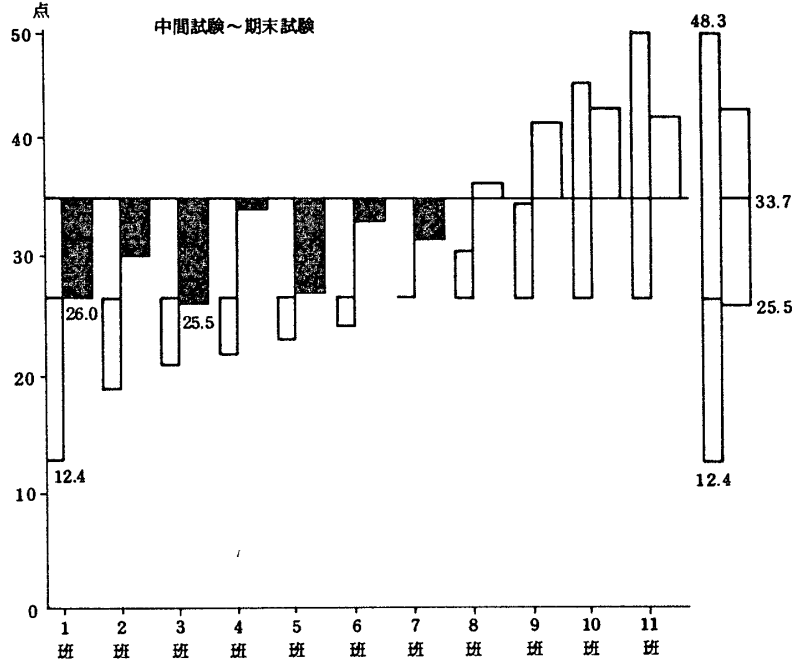
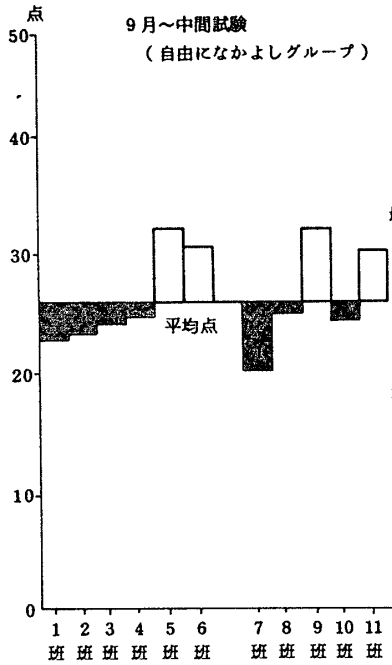
(2) 各グループの成績結果

中 3 A (男子 22 名 女子 22 名)



学習過程における座席の問題

中3 A



中3 B

